



自動車の内装合成皮革表皮材で 国内最大手の共和レザーが マルウェア対策でウェブルートをグループ全社に導入

サーバが不要なクラウド上の脅威データベース活用により
いつでもどこでもセキュリティを最新の状態に



共和レザー株式会社

企業概略

業種：各種合成樹脂製品の製造、

加工ならびに販売

設立日：1935年8月1日

代表者：取締役社長 中村尚範

所在地：静岡県浜松市南区東町1876

導入以前の状況

- ・サーバに接続できる環境でないと、定義ファイルをアップデートできなかった
- ・PCのスキャンに時間がかかり、昼休みの時間内に終わらないことがあった
- ・子会社などセグメントを超えた管理ができず、手間が多くかった

導入効果

- ・即座に更新される脅威データベースを活用することで、常に最新のセキュリティ状態を保てるようになった
- ・PCのスキャンが高速化、且つ低負荷のため業務中でもスキャン動作が気にならなくなった
- ・セグメントを超えた管理が可能になり、ひとつのコンソールで子会社の状況も把握できるようになった

オーバービュー

革製品を中心に、各種合成樹脂製品の製造、加工、販売を行う共和レザー株式会社は、1935年に創業、2015年に80周年を迎えた老舗の企業です。車両事業、住宅・住設事業、ファッショング・生活資材事業の大きく3つの事業を展開し、自動車内装合成皮革表皮材では国内シェア70%と第1位、世界でも第2位のシェアを誇ります。静岡県浜松市を中心に5つの工場を持ち、中国の1社を含む5社の子会社を持ちます。

共和レザーでは、これまで社内PCのセキュリティ対策に定義ファイルによるウイルス対策ソフトを導入していましたが、定義ファイルのアップデートやスキャン処理に時間がかかること、PCへの動作負荷の大きさ、感染時の対応に手間がかかるなどから、ウェブルートの「Webroot SecureAnywhere® Business エンドポイント プロテクション」を導入しました。

課題

共和レザーでは早期からITセキュリティの重要性を認識し、ファイアウォールやウイルス対策ソフトなどを導入していました。しかし「定義ファイルは管理サーバから配信されるのですが、同じネットワーク内にPCがないと配信されないので、出張先でウイルス感染の恐れがありました」と当時を振り返るのは、共和レザーのシステム管理部部長の袴田浩氏。

また、昼休みにPCのスキャンを行う設定にしていたのですが、スキャン処理が昼休みの時間内に終わらず、業務に影響を及ぼすこともあったといいます。さらに、標的型攻撃メールやスピアフィッシングメールといった高度なメール攻撃も懸念材料だったといいます。「最近のメール攻撃は、件名や本文の日本語に違和感がなく、CCに社内に実在する人間が設定されていました。また、うっかり開いてしまうような件名のメールが多く、社内でも数回メールの添付ファイルを開いてしまい、PC内のウイルス検知や対応にも時間がかかっていました」と、同システム管理部の主事である山田佳和氏は言います



共和レザー株式会社 システム管理部 部長 袴田浩氏は、次のように語っています。「すべてがクラウドベースとなったウェブルートの導入で、PCがどこにあっても最新のセキュリティ状態を維持できるようになり、マルウェア感染のリスクが大幅に減りました」。またシステム管理部 主事 山田佳和氏は「子会社も含めた全社のPCのセキュリティ状況を容易に把握できるようになりました。他のウイルス対策ソフトとの共存も可能ですので、導入も安全かつ効率的に行うことができました」と語っています。

ソリューション

そこで共和レザーではウイルス対策ソフトの置換えを検討し、ウェブルートの「Webroot SecureAnywhere® Business エンドポイント プロテクション」を選定しました。「ウェブルートは、インターネットを検索して見つけました。まず、サーバが不要であることが大きなメリットであると感じました。また、他のウイルス対策ソフトと共に存が可能ですので、移行も容易に行えると考えました。他にも検討した製品はあったのですが、この2点が決め手となりウェブルートの導入検討を開始しました」(袴田氏)。

2015年6月から1カ月にわたりトライアルを行い、動作や速度について検証を行ったといいます。そこで特に問題がなかったため、7月に導入を決定、順次全社グループに展開しました。「導入と並行して、ウェブルートのセミナーに出席したり、いろいろと調べたりして、ウェブルートが米国ではポピュラーなセキュリティベンダであること、完全にクラウドに移行した唯一のベンダであることなどを知りました」(山田氏)。

導入効果

「Webroot SecureAnywhere® Business エンドポイント プロテクション」の導入により、最も効果を感じた点は、即座に更新される脅威データベースの活用とスキャン時間の短さだったといいます。「クラウド上の脅威データベースを参照してマルウェアを検査し隔離するため、PCが社内のネットワークになくとも常に保護されるようになりました。また、スキャン時間も高速化され、しかも動作が軽いため、本当にスキャンを行っているのかどうか分からぬほどになりました」(袴田氏)。

また、サーバを使用する製品では、5年ほどのタイミングでサーバを入れ替える必要があったので、サーバが不要になったことによるコスト削減の効果もトータルで考えれば大きかったといいます。さらに、「一度社内のPCでメールからウイルスを検知した際には、ウェブルートの脅威データベースで調査した結果、標的型ウイルスであることが特定できました。以前はランサムウェアへ感染した際にはPCを初期化するしかありませんでしたが、今後は万一感染が発生してもウェブルートはロールバックが可能なので、初期化することなくPCを復旧できると期待しています」(山田氏)。

山田氏はまた、クライアントの管理のしやすさもメリットとして挙げました。「以前は社内にあるPCしか管理することができませんでしたが、『Webroot SecureAnywhere® Business エンドポイント プロテクション』では、セグメントを超えてクライアントを管理できます。ひとつのコンソールから子会社にあるPCのセキュリティ状況も把握できるため、子会社のPCで怪しいファイルを開いてしまったという連絡があった場合でも、コンソールから該当するPCを確認し、その場で駆除が行えます。管理の工数も大幅に減っています」と評価します。



今後の展望

「Webroot SecureAnywhere® Business エンドポイント プロテクション」を導入して1年になりますが、検知率、操作性、速度や重さについても不満はないといいます。その上で要望についてうかがうと「PCの感染を検知した場合、コンソールから該当PCをネットワークから遮断します。これが自動化できるとありがたいですね」と袴田氏は要望を挙げました。トライアルでほとんどの機能をチェックしたため、導入後は特に問題なくスムーズに運用できており、グレーディング判定の処理も活用しています。

共和レザーとしての今後のセキュリティ対策については、「最近は情報が狙われるケースが多いので、引き続き情報セキュリティ対策に注力したいと考えています。ゲートウェイではファイアウォールに加えて複合的なバリアを構築し、守りを固めていきたい。また、今後デバイスが増えていくとリスクも増えていくので、リモートデスクトップなどのソリューションも検討しています」(袴田氏)としています。



システム管理部 部長 袴田浩氏



システム管理部 主事 山田佳和氏